

説 教

ペンテコステ礼拝 北浜チャーチ

2021年5月23日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「五旬節の日が来た！」

—約束の成就—

テキスト：使徒の働き2章1～4節

**はじめに**

- ・私は地上の楽園のひとつと言われるミクロネシア諸島に行ったことがあります。ミクロネシアの大きさは、日本の奄美大島ほどで約607の島々があります。私はその中の一つトラック(Truck)島へ行きました。
- ・ミクロネシア・トラック島の美しさは、エメラルドグリーンの海、どこまでも続く浜辺、そして美しい「サンゴ礁」です。海が好きな私は現地の牧師の案内で、海中散策をしました。水中眼鏡をかけて海中に入ると、そこはサンゴ礁と無数の熱帯魚の世界でした。今でもあの感動を忘れることはできません。
- ・何種類もの色鮮やか(赤色、黄色、ブル等)熱帯魚は、群れをつくり泳いでいました。その時、熱帯魚の素晴らしさに引かれました。しかしその後トラック島に出かけることができない私は、私の部屋に熱帯魚の入った小さな水槽を置いています。そして小さな熱帯魚の世界を観察することが楽しみとなっています。
- ・中でも驚くことは、あの小さな熱帯魚(1cmも満たない)が、保温された水槽内を、自由にスイスイと元気よく泳いでいることです。熱帯魚の子となると、わずか数ミリ程度です。しかし、とても元気よく泳いでいます。
- ・不思議なことは、あの小さな熱帯魚のいったいどこに、あんなに敏速に泳ぐエネルギーがあるかということです。エサは数日に一度与える程度です。それは熱帯魚の中に力があり、そして生きているからです。ですから、あんなに元気よく泳げることが分かりました。あんな小さな熱帯魚のパワーは、魚の内に秘められていることを確認したのです。
- ・皆さん。私たち神を信じるクリスチャンのパワーはどこにあると思いますか。それは聖霊にあります。クリスチャン生活の原動力(driving force)は、聖霊にあります。
- ・今日は、その聖霊が神を信じる人たちの上に注がれた記念すべき日であります。この日を「五旬節」(50日の意味)、ペンテコステ(聖霊降臨日)と呼びます。
- ・神を信じる人々に聖霊が注がれたことによって、クリスチャンは神から力をいただき、キリストの教会が生まれました。そして世界各地へ福音が伝えられるようになりました。
- ・今日は、大切な聖霊降臨日です。聖霊はペンテコステの日に、なぜ注がれたのか。そして聖霊は、どのような働きをしてくださるのか、聖書から学びたいと思います。 2点

**大切なポイント**

1. **ペンテコステ(五旬節)の意義**
  - 1) **小麦の収穫記念日**

- ユダヤ人にとって大切な祭りの1つに、「過ぎ越しの祭り」です。  
それは昔イスラエルの民がエジプトで、430年間にわたり奴隷の身であったときです。神はリーダーとしてモーセを立たせ、エジプトから約束の地カナン（イスラエル）へ向かわせたことに由来します。
- 神はイスラエルの民を愛しておられます。エジプトの王ファラオに、イスラエルの民をカナンの地へ移動するように言われました。心頑なファラオは、それを拒否しました。そこで神は10回に及ぶ「災い」を与えられました。その結果、ファラオは已むに已まれず、イスラエルの民のカナン行き（出エジプト）を許可しました。
- そのエジプト脱出の際に、神がイスラエルに与えられたのが「過ぎ越しの祭り」でした。これはイスラエルにとって、大変重要な祭りです。ユダヤ人たちは今日も、「過ぎ越しの祭り」を毎年記念しています。
- その「過ぎ越しの祭り」から数えて7週間（49日）後に、小麦の収穫を感謝する祭りが置かれました。{それがペンテコステ（50日）を記念する祭りです。} **レビ記 23章**  
**23:15** あなたがたは、安息日の翌日から、奉獻物の束を持って行った日から満七週間を数える。  
**23:16** 七回目の安息日の翌日まで五十日を数え、あなたがたは新しい穀物のささげ物を【主】に献げる。
- ところが、神はこの50日（ペンテコステ）を記念する日は、特別の祝福の祭りであることを備えておられたのでした。
- 使徒の働き 2章 1節には、次のように記録されています。  
**2:1** 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。  
 ここの「皆が同じ場所に集まっていた。」とは、小麦の収穫を感謝するために集まっていたと思われれます。集まった場所は、最後の晩餐の「屋上の間」（使徒 1:13）か、あるいは「宮」（ルカ 24:53）であったか、そのどちらかであったであろうと考えられています。いずれにせよ、彼らは心を一つにして祈っていました。
- 彼らはイエスが言われた「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい」（1:4）をしっかりと受け止め、「皆が同じ場所に集まっていた」でした。
- 詩篇には次のように賛美があります。 **詩篇 133篇**  
**133:1** 見よ。なんとという幸せなんとという楽しさだろう。兄弟たちが一つになってともに生きることは。  
**133:2** それは頭に注がれた貴い油のようだ。それはひげにアロンのひげに流れて衣の端にまで流れ滴る。  
**133:3** それはまたヘルモンからシオンの山々に降りる露のようだ。【主】がそこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。
- 皆さん。ここで注目したい点は、旧約聖書にある小麦の収穫を記念する日（50日目）に、聖霊が神を信じる人たちに注がれたことです。

## 2) ペンテコステのしるし

- 2:2** すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。
- 2:3** また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。  
 ・これがペンテコステに起こった出来事でした。3つのしるしが伴いました。

### ① 第1の「しるし」

2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり

最初のしるしは、耳に聞こえるものでした。だれにでも分かるものでした。「風」は聖書で、よく聖霊の象徴として用いられています。ヨハネ3章

3:8 風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのかわかりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

・天からこの響きが起こったとありますから、このしるしは「天から到来したしるし」であったと分かります。

### ② 第2の「しるし」

2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、

第2のしるしは、目で見ることができました。火とか炎は、聖書では聖霊を現す象徴です、炎の現れは、きよさを示しているでしょう。バプテスマのヨハネはこう言いました。マタイ3章

3:11 私はあなたがたに、悔い改めのバプテスマを水で授けていますが、私の後に来られる方は私よりも力のある方です。私には、その方の履き物を脱がせて差し上げる資格もありません。その方は聖霊と火でああなたがたにバプテスマを授けられます。

3:12 また手に箕を持って、ご自分の脱穀場を隅々まで掃ききよめられます。麦を集めて倉に納め、穀を消えない火で焼き尽くされます。」

### ③ 第3の「しるし」

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

第3のしるしは、自分たちの知らない言葉で神のわざを語り出したことです。

風が力を表し、炎がきよさを表すならば、第3のしるしは福音の普遍性を表すと考えられます。

・なぜなら、福音は言葉（言語）によって伝えられるものであるからです。

イエスは言われました。使徒の働き1章

1:8 しかし、聖霊がああなたがたの上に臨むとき、ああなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

・キリストの福音は全世界へ届くと言われました。神の大いなるご計画です。

あれから約2千年の年月が経過しました。キリストの福音は、今ではSNS等によって、地の果てに至るまで届きつつあります。聖霊降臨の3つのしるしは、とても意義深いものがあります。このようにして、神のご計画はいよいよ前進することとなりました。

・この後、イエスの大宣教命令によって、神がつづられた歴史は全世界へと展開していきます。さらに聖書は、キリストの福音が世界のあらゆる人々に届けられ、終わりの日が来ると語っています。

・今日はペンテコステですから、終末について語ることはしません。聖霊について語りたく思います。それはペンテコステの祝福です。

## 2. ペンテコステの祝福

### 1) 聖霊の働き

- ・私たちは聖霊降臨について、不思議なしるしをみてきました。  
もし、私がおの場にいたとするならば、きっと腰を抜かしてしまう出来事であったと思います。  
**感動 ⇒ 驚き (驚異) ⇒ 畏敬心 すばらしい!**
- ・しかし、ここで見落としてはならないことがあります。それは何が最も大切であるかということです。「しるし」、「現象」、「出来事」はみなすばらしいことです。しかしペンテコステの中心は、しるしにあったのではなく、「皆が聖霊に満たされた」という事実にあります。
- ・皆さん。私たちは聖霊の満たしとか、聖霊充滿という言葉を使います。  
聖霊に満たれるとはどういうことでしょうか？皆さんは、どう思われますか。  
世界でどんな神学者であっても、聖霊を説明することはできないと言われていています。なぜなら聖霊は神ご自身であるからです。聖霊の現れは、多面的であり、私たちの限られた能力ではそのすべてを理解することは難しいことです。
- ・ある方々は聖霊が臨むと、感情の高まり、病気の癒し、預言的な働き、超自然的な出来事などであると主張します。もちろん、そういう素晴らしいこともあります。{私は否定しません}
- ・ある時、イエスは次のように言われました。ヨハネ福音書 14 章  
14:16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにして下さいます。
- ・私は、聖霊が臨まれることの1つは、神の所有になることではないかと思えます。神が何のさまたげもなく、その人を用いられることです。
- ・初代教会時代の信者たちは、前代未踏の地へキリストの福音を届けるために遣われて行きました。それは神の働き、聖霊の働き以外のなにものでもありません。彼らは人々から理解されず、反対され、嘲笑され、そして迫害を受けました。それは彼らに備えられた道でありました。
- ・しかし彼らは聖霊に満たされ、恐れることもなく、大胆にキリストの福音を宣べ伝えて行きました。それは聖霊が内に住んでくださり、聖霊に先導された神の力でした。私たちは教会史を通して、多くのストーリーを知ることができます。聖霊は私たちとともにいてくださり、もう一人の助け主として働いてくださいます。

### 2) 聖霊に先導していただく

- ・では、聖霊に満たされ、神の所有となり、神の臨在の場に置かれるならば、いったい何が起こるのでしょうか。  
14:17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。ヨハネ
- ・神が臨在くださるとき、神の慰め、神の励まし、神からの勇気、神の力が現れてきます。そして聖霊によって、日々みことばを通してお語りくださいます。じつに多様性に富む方法によって、聖霊は働いてくださいます。
- ・ただ神が働いてくださられない場合があります。マタイ福音書  
12:32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを

言う者は、この世でも次に来る世でも赦されません。

イエスは、聖霊に逆らうことは赦されません、と言われました。なぜでしょうか。それは私たちの「罪」を聖霊が指摘するからです。その聖霊を否定するようなことがあれば、神の赦しは実現しません。

- ・聖霊は「三位一体」(trinity)の第3位格と呼ばれますが、三位一体とは神学用語で聖書にはありません。三位一体の神を説明できる人は、おそらく世界にはいないといわれるほど難しい言葉です。
- ・そこで、大いなる神を表す用語を小さな私が語ることはおこがましいことです。しかし初心者の方々に、私は次のように説明させていただいています。
- ・先ず「三位」とは、「父なる神」、「子なる神」(イエス・キリスト)、そして「聖霊なる神」です。この三つの姿を持つ神は、人類史において『三位であり一つである』ということです。それは、次のように現れてくださいました。

### ① 「父なる神」

旧約聖書時代つまり紀元前の時代、神はイスラエルを選ばれ神と人との関係の型とおかれしました。そして神はいろいろな時代に、預言者を遣わしてイスラエルの民に何度もお語りくださいました。いろいろな時代に、預言者を通してお語りくださったお方が「父なる神」です。旧約聖書時代は、この「父なる神」が現れてくださいました。

### ② 「子なる神」

時が満ちて、神は人の姿をとり愛するイスラエルにイエス・キリストを送られました。人間の姿をとられた神です。イエスは次のように言われました。ヨハネ福音書

10:30 わたしと父とは一つです。」 ヨハネ

14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知らないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。」 ヨハネ

- ・つまりイエスは人の姿を持たれたお方です。イエスの内には神性と人間性の二つが共存していました。ですからイエスは人の痛みや苦しきも、私たちと同じように感受されたお方でした。それが新約聖書の4福音書に記録された「子なる神」イエスです。

### ③ 「聖霊なる神」

- ・イエス・キリストは十字架にかけられ、埋葬され、そして復活されました。そして50日後に、神は神を信じる聖徒たちに聖霊を送られました。それが今日学んでいるペンテコステです。
- ・使徒の働き2章にありますように、聖霊は各自の上にとどまりました。  
2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。  
つまり、今の時代は聖霊の時代です。聖霊なる神は、信じる者一人ひとりにとどまってくださるお方です。そしていろいろな働きを直接的にしてくださいます。
- ・今の時代は、旧約聖書時代の人々が、イエス時代の人々が経験できなかった幸いな特権に与っているのです。今は聖霊が信じる者たちに、お語りくださる時代となりました。

- では、神はどのようなお方でしょうか。 出エジプト 13 章  
13:21 【主】は、昼は、途上の彼らを導くため雲の柱の中に、また夜は、彼らを照らすため火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。  
13:22 昼はこの雲の柱が、夜はこの火の柱が、民の前から離れることはなかった。
- 先導くださる神を経験した詩篇作者は、次のように歌いました。  
詩篇 119 篇  
119:103 あなたのみことばは私の上あごになんと甘いことでしょうか。蜜よりも私の口に甘いのです。  
119:105 あなたのみことばは 私の足のともしび 私の道の光です。
- そしてイスラエルのダビデ王は、晩年に次のように賛美しました。  
詩篇 23 篇  
23:1 【主】は私の羊飼い。私は乏しいことはありません。  
23:2 主は私を緑の牧場に伏させいこいのみぎわに伴われます。  
23:3 主は私のたましいを生き返らせ御名のゆえに私を義の道に導かれます。
- 神は歴史の中に存在されます。生きておられる神は、常に私たちの前に立って導いてくださいます。生きておられる神は、聖霊という姿で私たちに内住くださり導いてくださいます。歴史の中に生きる神を信じるクリスチャンは、このような素晴らしい神を信じる者です。
- イエスは言われました。使徒の働き 1 章  
1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」  
ここで用いられた「力」(dynamis:ディナミス)は、ダイナマイトの語源となった語です。
- ペンテコステの日に注がれた聖霊は、今も同じように働いてくださいます。それが「三位一体」の第三位格である聖霊です。神の前に出る値のないような者のために、神はこのような素晴らしい道を備えてくださいました。ですから、私たちはただ主を賛美するものです。

## まとめ

主 題：「五旬節の日が来た！」

—約束の成就—

- 今日はペンテコステを迎えて、主は私たちにお語りくださいました。  
私たちは聖霊降臨を喜び、感謝し、主を賛美します。最後にイエスが地上最後にお語りくださったみことばをお読みしましょう。  
1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」使徒の働き

\* God bless you!

